
空を飛ぶのに必要なこと

Ram F

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空を飛ぶのに必要なこと

【著者名】

ZZ一丁

Z5885U

【作者名】

Ram F

【あらすじ】

空は自由で不自由で羽を休めたことがあるのではないか

僕はずっと大空の不自由さに窓枠から顔を出す鳥籠眺めていました。

僕は人の持ち物として鳥籠に入つことがありませんでした。

鳥かごを全く違う空から見下ろして、夏の暑い日差しにも、雨が強く、僕の羽が飛べなくなってしまっても、そつと見ていました。

あなたが鳥籠を向けだしたのは、必然でした。

その日のことを、僕は忘れています。いえ、忘れていたといいます。あの日の空も、風の強さも。

僕はただ、あるいはきっと、羽根休めをしたかったのです。

中略

鳥籠には、不自由に空を見つめる雛鳥がいました。僕は、鍵を開けてやりました。

すると雛鳥はビクビクしながらも「はい」と言つのです。

僕はどんなつもりだったのでしょう。空を知らない雛鳥に空の素晴らしさを伝えてしまつた。

僕には鳥籠の中へい続けることを考えたこともなかつたのです。それは思いがけない出会いでした。

窓の外は雛鳥に似のよつに見えたのでしょうか。

僕は後悔したのです。空を知らない雛鳥に自由に空を飛べるには、

飛びたいという意思ともうひとつ。羽に力がなければならないのです。

僕は、窓に飛び降りて鳥籠をみました。

そこには、雛鳥はいませんでした。

それから、幾年がたつて、風の噂で雛鳥の行方がわかりました。

僕は、窓の外で雛鳥を覗き込みました。

そこには、羽の折れた一匹の鳥がいました。

僕は、このことは忘れないでしょう。余つことはできません。

顔を合わせることができそこにありません。ですが、君の羽は純粋であることは素直で、

風当たりが強いのでしょうか。

でも、きっと空を強く飛べる日が来るでしょう。もし、飛べなかつたとしても広大な海があるでしょう。

僕にはできなかつたことあなたにはできるでしょう。これは予言です。

ところで、最近、あなたに少しだけ似た人がやつてきました。空は曇りました。その人は、鳥籠の中にいて「世界などつまらない」と言いました。

僕は夢見心地でした。それは懐かしい出会いでした。僕は、あの

時の後悔を徐々に晴らせりれると思つたのかもしれません。

ああ、あなたは今どこで何をしているでしょうか。

まだあの日のよつて、鳥籠の生活を楽しんでいないのでしょうか

僕は、今、暗雲の中にいます。この空にて、奇跡のような世界があると信じて飛び続けています。

今いる空からは暗くて地面も見えないので、僕は目を見開いて、世界をよく見つめています。

虹の空を見逃してしまわないよつて

たくさんのこと教えてくれてしまつてごめんなさい。でも、飛び方を知らなくても、あなたには空にでたい気持ちと、その大きな白い翼があるじゃないか。あの時空を飛ぼうと思つたちょっぴりの勇気。

あなたには、僕にはない大切ものがあります。だから、その羽に見失わぬ力がこめられる口がきっと来るんだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5885u/>

空を飛ぶのに必要なこと

2011年10月4日18時30分発行